

巻 頭 言

経営情報学部長 松浦 博

長野新幹線を延伸する形で北陸新幹線が3月14日に開通し、金沢・富山と東京の間が2時間台で結ばれた。首都圏をはじめとした他地域との観光やビジネスにおける交流人口が大きく増加することが見込まれる。首都圏と人やモノの交流が深まる石川、富山両県の経済効果は、年200億円を超えるとの試算がある。その反面、消費や企業が首都圏に流出するいわゆるストロー効果や並行する在来線の赤字や航空路線の維持など、多くの課題が伴うことも事実である。

一方、静岡県も首都圏と直結し観光事業が盛んな地域であり、地域活性化として観光は重要な役割を担っている。しかし、宿泊客数は年々減少傾向にあり、富士山の世界遺産認定があったものの、旅行先としては伊豆地域・富士山地域に偏っており、他地域への観光客が少ないという問題や遠方からの観光客が少ないといった問題がある。さらに、外国人観光客の増加が期待される一方で、豊富な観光資源と海外旅行者が求める潜在的な多様な観光ニーズとをどう結びつけるのかなどの課題が山積しており、地元自治体や企業が連携して、地域の魅力を向上させる取り組みが今後の鍵となっている。

今、地方大学には「地方への新しい人の流れをつくる」「地方にしごとをつくる」という取り組みが求められている。特に、公立大学は地方公共団体が設置する大学として、率先して地域課題の解決に取り組んでいく使命を有しており、今後さらに高等教育機関として地域のニーズに応じた人材を育成することが求められる。本年度に文部科学省「地（知）の拠点事業」に採択された『ふじのくに「からだ・ところ・地域」の健康を担う人材育成拠点』は、まさにこのための全学的な取り組みである。

本学部においても、複雑な地域課題を解決し、より地域に貢献する人材を輩出するため、「経営」「総合政策」「情報」分野の専門性と3分野の融合をより高めるためにコース制の導入の検討が行われてきた。来年度は、各コースの専門科目の履修要件の設定などが実施されることになり、新たな多分野融合を目指して、特定の専門領域だけでなく周辺領域まで理解できる「幅広い知識を基盤とした高い専門性」を備えた学生の養成に新たなスタートを迎える。今後、地域の発展を担っていく多くの学生が育っていくことを期待したい。